

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990100715		
法人名	医療法人 山村会		
事業所名	あさひ		
所在地	高知県高知市下島町124番1号		
自己評価作成日	令和3年8月23日	評価結果 市町村受理日	令和4年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は介護複合施設の1階にあり、レストランや地域交流室を併設し、2階に介護付有料老人ホーム、3階には住宅型有料老人ホームがあります。
現在は、コロナウイルス感染予防のため中止中ですが、リビングや地域交流室では定期的に演奏、ダンス、手芸等のボランティアの来訪があるほか、レストランは一般開放して家族や友人との食事はもちろん、毎年秋に開催している「山村祭り」も地域の方々の集いの場のイベントに成長しています。
施設前には公園があり、利用者とスタッフが一緒に公園内の清掃や、花木のお世話等の活動を行い、地域とのつながりを図っております。
協力医療機関である母体法人運営の山村病院との24時間医療連携により、利用者の体調不良時や急変時に、速やかな対応ができるよう体制を整えています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JiyosyoCd=3990100715-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和3年12月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設6年目を迎えた事業所で、開所当時行われていた区画整理による都市再開発も完了し、住宅と公園に囲まれた静かな環境にある。3階建ての建物の1階がグループホーム、2階、3階は系列の有料老人ホームで、同じ敷地内には母体法人運営の病院があり、医療面での利用者、家族の安心につながっている。
事業所南側の芝生の庭園スペースには居室からも行き来が可能で、ベンチを置いて利用者の憩いの場ともなっている。家庭菜園があって、トマト、レタス等の野菜を毎年利用者自身が植え付け、育て、収穫し、料理にして楽しんでおり、利用者の生きがいにもなっている。
母体法人運営の病院から異動してきた管理者は、当事業所では3年目だが、20年以上の介護の経験を持ち、利用者本位のケアに職員と一丸となって取り組んでいる。
地域とのふれ合いが理念の一つとされ、散歩途中で出会う地域住民とは利用者も顔見知りで、気軽に挨拶や会話を交わし、地域の一員として迎えられている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: ひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに内に運営理念を掲示し、日々の生活支援にあたっている。	それまで介護複合施設としての共通の理念であったものを、昨年職員で話し合っ事業所独自の理念に作り変えた。地域とのふれ合い、ここに居てよかったと思える支援を新たな理念とし、職員会の場等で振り返りを行って、ケアへの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で現在は中止中だが、利用者は、各階の利用者と気軽に交流が持てやすく、また、近隣には公園や商店等があり、日常的に地域住民との交流やつながりが持てるよう支援している。	コロナ禍のため、従来行っていた地域に向けてのホールの貸し出しは休止している。町内会に加入し、地域の活動には参加するとともに、利用者が近所の庭の花の水やりをやらせてもらう等、地域とのつきあいを続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所見学、入所申込時、電話での問い合わせ時に、家庭で困っていることや悩み等を聞き、支援や福祉サービスの活用等の助言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活活動の様子や、入退居状況、事故、ヒヤリハット等の報告を行い、出席者と意見交換して助言等を得ながら、支援サービス向上と改善に役立っている。	最近集合方式での運営推進会議を再開し、家族、民生委員、地区長、地区会館館長、地域包括支援センター職員を外部メンバーとしている。内容は報告中心で、双方向的な会議とはなっていない。議事録は毎回家族に送付している。	自己評価、外部評価結果を説明し、意見や助言を得るようにして、双方向的な会議となることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で意見や助言を得ながら、支援サービス向上、問題改善に努めている。	制度上不明な点等、運営上の疑問点は市担当者を確認し、地域包括支援センターとは主として入所に関するやり取りをしている。運営推進会議を通じても情報共有と意見交換を行っており、協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月毎の身体拘束委員会及び高齢者虐待の研修会を実施し、日々の支援対応を改めて確認し合っている。玄関は夜間、早朝以外は施錠していない。利用者の帰宅願望が見られた際には、思いを傾聴したり、施設周囲を散歩し行き気分転換を図るなどして、本人の思いに寄り添う対応を心がけている。	2ヶ月に1回、管理者が講師役となって、報道のあった他施設での実例などをもとに内部研修を行い、身体的なものは勿論、スピーチロック等の間接的な拘束もしないケアの実践を職員と話し合っている。3人の利用者がセンサーマットを使用しており、家族に必要性を説明のうえ、同意を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	インターネット、文献等からの研修資料や、他の施設や他県での事例を取り上げて職員間で話し合い、言葉かけ、立ち振る舞い等の日々の接遇を振り返りながら、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、一人ひとりの必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用者は現在いないが、管理者、職員は研修会等に参加し、制度の仕組みや役割について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に契約書、重要事項説明書等の関連事項を読み合わせを行い、質疑応答にあたっている。契約後も何時でも何か不明なこと、不安や疑問、苦情などが傾聴できるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月家族に利用請求書と一緒に事業所便りを郵送し、利用者の事業所内での様子や活動、お知らせ事項等を掲載し、報告している。	家族会で家族だけで話し合う場を設け、率直な意見が聞かれるようにすることを前回外部評価で指摘されたこともあって、11月に行った家族会では、家族会会長を中心に家族だけで話し合ってもらおうようにしたが、何を話せばよいのか、ということになって、上手くいかなかった。	家族会で事業所から説明した項目について話し合いをしてもらおう等、話し合うテーマを持たせる工夫をして、家族からの率直な意見が聞かれるようにすることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会を開催し、支援の振り返りを行なって、意見、要望を聞き、業務内容の問題点や改善点を検討している。職員間の人間関係の悩み等があったときは、必要に応じて管理者が個別に聞き取りを行ない、対応している。	管理者は、職員会等の会合、日ごろの業務の中で職員から意見を聞くことに努めており、ケア上の工夫等様々な意見が出されて取り入れられている。利用者の新規入所を決定する際にも、職員の意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員一人ひとりの努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの希望や、事情に応じた勤務シフトの作成に努めている。研修参加やレポート提出で職員の努力を評価する機会を設け、賞与や昇給に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で施設内外への研修参加は状況を見定めて行い、リモート研修等にも参加し、職員のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高知市地域包括支援センター再編に伴い西部地域グループホーム連絡会が解散となり、情報交換の機会がなくなったが、近隣事業所と連絡を取り合い、助言を得ている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自分でできることは可能な限りしてもらおうよう働きかけ、励まし合い、ときには職員と一緒にいながら、各々の残存機能の維持向上ができるようにしている。ここに居て良かったと思ってもらえるよう、関りを深めながら傾聴し、利用者との対話を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談時に、認知症発症前後の生活の変化や不安や要望を聞き取り、本人、家族が望む事業所生活が実現できるよう、一緒に考えていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階で担当者会を行ない、その人らしく、実行可能で安心安全な支援を模索し、介護計画を立案している。また、必要に応じて訪問歯科医、理美容店のほか、協力医の24時間連携体制によるサービスを調整、提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の人生経験、時代背景、生活歴に目を向け、思いやできることを尊重し、家事活動、畑での野菜づくりや公園内の花木の世話等において、職員は、利用者から教わりながら共に生活をしているという意識を持ち、生活の場づくりに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者一人ひとりが抱えている不安や悩み、問題は、職員だけで解決するのではなく、家族と共有して相談をしている。医療機関の受診や散髪等を受けることが苦手な利用者は家族に立ち会ってもらったり、同行してもらう等の協力体制ができています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、兄弟姉妹、親戚、友人が気軽に面会できるように雰囲気づくりに力を入れ、気兼ねなく居室で過ごしてもらえ配慮をしている。現在はコロナ禍のため、電話での会話やタブレット端末を用いた面会等に柔軟に対応している。	コロナ禍の前は、友人、知人の来訪のある利用者が多く、事業所も歓待していた。現状では、電話での会話のほか、ドライブの際には利用者の自宅付近を通って話をする等、可能な範囲で馴染みの関係継続に努めている。近所の行きつけの商店等、新たな馴染みの関係もできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や人間関係に配慮し、両ユニットのそれぞれ集いやすい場所や席の割り振りを行い、レクリエーション、家事活動、調理活動等を楽しんでもらえるよう、関係性を深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には、家族の了解を得たうえで見舞いに行ったりしている。利用契約が終了しても、気軽に立ち寄ってもらえるよう声かけを行い、困ったことや悩みがあるときは、いつでも相談に乗るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活の場ではあるが、利用者一人ひとりがその人らしい生き方、生活ができるよう、職員間で日常の様子から情報を得ている。必要に応じて、家族からも思いやニーズを聞き取って、サービス提供できるよう努めている。	職員は日ごろから利用者の思いの把握に努めており、ケアの中での新たな気づきは日誌に記録し、申し送り時に話し合う等、共有に努めている。一覧的な記録はないので、外部から見ると分かりにくい。	把握された利用者一人ひとりの思いや意向の変遷を1枚にまとめて記録し、一目で分かるようにすることで情報共有を容易にしていけることを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前後に得た情報だけでなく、本人と家族にこれまでの生活歴を聞く一方、事業所での日々の様子からも情報収集している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの趣味や好きなこと、特技、レクリエーション活動を盛り込んだ介護計画を作成し、活動の幅が広がるよう努めている。また、職員や利用者同士が話を聞く姿勢を持つことで、発語や会話も増えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所前に本人、家族の意見、要望を聞き取り、介護計画評価は担当職員が行い、モニタリングをして、情報収集をしている。ニーズの聞き取りはケアマネージャーが行っている。	定期的な見直しは6ヶ月毎、本人の状態に変化があった場合はその都度、ケアプランの見直しを行っている。ケアマネージャーが事前に本人、家族の意向を聞き、利用者毎の担当職員のモニタリング結果を見て素案を作成し、他の職員、看護師、管理者を交えた担当者会で協議している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や、家族の要望などを分かりやすく記録するよう、心がけている。また、介護計画に連動した記述ができるよう、両ユニットの記録委員会を中心に職員間で意見交換をしながら、記述内容を見直し、改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	加齢による筋力低下、体調変化の早期発見のため生活活動を注視し、必要に応じて協力医受診、リハビリテーションの依頼等を行い、身体と健康の維持に努めている。利用者一人ひとりが役割分担を検討しながら、生き生きとした生活ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で近隣の商店、スーパー、図書館の利用者利用は中止している。事業所周辺を会話しながら散歩したり、事業所内でおやつ作り、体操などを行うなどの活動をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から利用しているかかりつけ医の継続利用を希望の場合は、家族同行で受診してもらい、受診結果は家族から確認して、情報共有をしている。突発的な熱発や外傷などの対応では、協力医を受診している。	かかりつけ医は本人、家族の希望で決められているが、何かあったときに安心ということで、全員が協力医の母体法人運営の病院をかかりつけ医とし、本人の状況に応じて月1、2回職員の付き添いで受診している。歯科医は協力医の往診が毎月あり、口腔ケアに役立っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、一人ひとりの利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、職員が利用者の心身の変化をその都度報告、相談して、重篤化する前に医療機関を受診する対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、入院に至る経緯を書面で情報提供をしている。また、家族の了解を得て管理者が家族と同席して病状を聞き、情報共有をしている。入院中は地域連携室、看護師、相談員と連携して受け入れ体制を整え、スムーズな退院の実現に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人重度化時や終末期の支援内容について説明し、看取りについての事前確認書に署名捺印をもらい、同意を得ている。また、状態の変化に合わせて、医師、家族、事業所で話し合いの場を設け、今後の看取りの方針を確認して支援を行っている。	本人の重度化時には家族の意向を聞き、看取り希望の場合は母体法人運営病院と24時間体制で連携し、これまでに複数の実績を重ねている。管理者自身は看取り経験が豊富だが、職員に対しての研修は格別行われておらず、看取りに対して不安がる職員もいる。	職員全員に十分な研修を行い、不安を軽減させることで、組織としての看取り支援ができるようにすることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、連絡体制、手順が分かるよう、両ユニットのスタッフルームに掲示している。緊急時や事故発生時には、優先順位を考え連絡を取り合うよう、日頃から話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害訓練している。夜間や地震、水害、火災等を想定した訓練を計画し、母体法人の施設全体で行っている。現在はコロナ禍のため、地域住民に呼びかけての訓練は中止している。	コロナ禍で現在は休止しているが、通常は近隣住民も参加し、各種災害を想定しての避難訓練を母体法人関係施設全体で年2回実施している。非常用食料、飲料水に関しては、1週間分を備蓄して、消費期限もチェック表を用いて確認し、更新している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを尊重した言葉かけをし、排泄誘導時や失禁時などに周囲に聞こえないよう心がけている。居室の入室時にも、利用者に解を得てから入室している。	職員は、馴れ合いにならないことに留意して利用者としており、トイレ誘導等のプライバシーを守ることが必要な場面では、周囲に気づかれないようにすることに特に注意して支援している。気になる職員の対応が見られた際には、お互いに注意しあ合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや要望が引き出せるよう、コミュニケーションを取ることを意識して対話している。また、不安や愚痴を訴えられることもあり、対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけ後も利用者の反応や返答を待ち、ゆとりをもって返答できるよう対応している。活動や会話を通じて関わりを持ち、本人らしく過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族からの要望だけでなく、職員からも散髪等の整容の提案をしている。また、自ら髪を整えたり、髭をそることなどができるよう、声かけをし、本人自身が身だしなみを意識するよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回の手作り調理の日を設け、利用者が食べたい物、昔食べていた物等を聞き取り、季節感を感じられるメニューを決めている。食材を切る、味付けする、味見をする等の係を設け、利用者も調理している。それ以外の日は、外注業者の配食を受けている。	食事は業者から配食を受けているが、毎月の意見交換会でメニュー等に対する要望を伝え、利用者の希望も取り入れられるようにしている。週1回の手作り調理の日には、刺身、ちらし寿司等、利用者の好きなものを利用者も一緒になって調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に応じて食事形態や量を変更するなど、柔軟に対応している。栄養状態が芳しくないときは、家族と看護師と相談したうえで、栄養補助食品で栄養バランスを取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ホール内の洗面台で見守りと介護での口腔ケアを行っている。毎月の歯科医往診時に、口腔衛生の質問をし、助言を得て研修を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、声かけ誘導して排泄を促したり、排泄の状態や量を記録している。また、病状が安定している利用者にも排泄支援もっている。	オムツ使用者が2名で、残りの利用者はリハビリパンツとパットを併用している。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけでトイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレを使用する利用者が3名いるが、その他の利用者は、可能な限りトイレ誘導している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、一人ひとりに応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が入ったゼリーや、センナ茶等を提供したりしている。水分量をアップするため、コップの大きさを変えて小まめに飲める工夫もしている。また、散歩や体操などの活動を行い、便秘予防と自力排便の促進に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、一人ひとりにそった支援をしている	入浴時間は午後に設定して実施しているが、長湯を好む利用者は希望に沿えるよう体調に注意し、対応している。発汗量が多い夏場は入浴回数を増やしたり、冬場は足浴を併用するなど、柔軟に対応するようにしている。	希望すれば毎日の入浴も可能だが、平均週2日の入浴となっている。湯は入浴の都度入れ変えており、入浴剤も本人の好きなものを使用している。入浴拒否気味の利用者が1名いるが、声かけの工夫や日時をずらすことで、週2回の入浴は確保している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝時間は決めておらず、ホール内や自室でテレビを見たり、読書したりと思いに過ぎしてもらっている。就寝リズムが作れない利用者には、職員が傍らに寄り添い、安心して就寝できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更時などには、看護師が内容を説明して、状態観察や注意点、必要性を指導している。職員全員が利用者一人ひとりの薬の内容を把握するまでには至っていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生花を生け、受付前やホール内に飾ったり、事業所前の公園では花木の管理、農園の作物の収穫や世話等の役割を利用者に持ってもらうなどしている。また、利用者差同士でランプや塗絵、壁画、おやつ作りなどして楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で地域の祭りへの参加、外食、季節ごとのドライブ等の集団外出を中止している。事業所周辺を少人数のグループに分かれて散歩したり、公園の掃除や花木の管理等の活動を行っている。	コロナ禍にあっても、7名の車いす利用者を含めて、2日に一度は周辺の公園に散歩に出かけ、利用者の気分転換と外気浴に努めている。地域行事への参加や外食、遠方へのドライブは休止している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週3回の移動スーパー、週1回の移動パン屋での購入の機会を設けている。金銭管理が無理でも、利用者自身に財布を持ってもらうようにしている。近隣の商業施設での買物や、外食等の機会も設けているが、コロナ禍で現在は中止している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で現在は家族との面会を禁止しているが、希望に応じて、事業所の固定電話や携帯電話、タブレット端末を活用して家族と会話をしてもらったり、手紙やハガキでのやり取りも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や、リビングの壁等に利用者が作成した折り紙や塗絵、レクリエーション活動の様子を撮影した写真等を貼り、活動を振り返りながら会話を楽しんでいる。居室出入口の飾り棚には、各々趣向を凝らした飾りを置いて、自分の部屋が分るようにしている。	日中は大半の利用者がリビングで過ごし、読書をしたり、会話をしたり、思い思いに過ごしている。職員と利用者が一緒に季節の飾り付けを行い、クリスマスツリーが飾られていた。レクリエーションの際の利用者の写真等も貼られ、居心地のよい、生活感のある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置しており、テレビ鑑賞や新聞、雑誌を見たり、職員と一緒に座って会話を楽しむなど、皆の集いの場として使用している。誕生日会やレクリエーション活動の際には、机や椅子の配置を変えるなどして活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、入所時に本人が使い慣れた家具や品物、写真等を持ち込んでもらい、また、生活しやすいよう居室内の動線を考えた居室づくりをしている。仏壇やソファ等を設置している利用者もいる。	各居室には、エアコンのほか、空気清浄機を完備している。本人の慣れ親しんだものを多く持ち込んでくれる家族が多く、家族写真のほか、筆筒、ソファ、テレビ等が置かれ、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新規入所の利用者が自室やトイレ等の場所が分からなかったり、混乱したりすることのないよう、その都度声かけて案内したり、立体的な目印等を作成するなどの配慮をしている。		

ユニット名:

ひまわり

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

ユニット名:すずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに内に運営理念を掲示し、日々の生活支援にあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で現在は中止中だが、利用者は、各階の利用者と気軽に交流が持てやすく、また、近隣には公園や商店等があり、日常的に地域住民との交流やつながりが持てるよう支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所見学、入所申込時、電話での問い合わせ時に、家庭で困っていることや悩み等を聞き、支援や福祉サービスの活用等の助言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活活動の様子や、入退居状況、事故、ヒヤリハット等の報告を行い、出席者と意見交換して助言等を得ながら、支援サービス向上と改善に役立っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で意見や助言を得ながら、支援サービス向上、問題改善に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月毎の身体拘束委員会及び高齢者虐待の研修会を実施し、日々の支援対応を改めて確認し合っている。玄関は夜間、早朝以外は施錠していない。利用者の帰宅願望が見られた際には、思いを傾聴したり、施設周囲を散歩し行き気分転換を図るなどして、本人の思いに寄り添う対応を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	インターネット、文献等からの研修資料や、他の施設や他県での実例を取り上げて職員間で話し合い、言葉かけ、立ち振る舞い等の日々の接遇を振り返りながら、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度の利用者は現在いないが、管理者、職員は研修会等に参加し、制度の仕組みや役割について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に契約書、重要事項説明書等の関連事項を読み合わせを行い、質疑応答にあたっている。契約後も何時でも何か不明なこと、不安や疑問、苦情などが傾聴できるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月家族に利用請求書と一緒に事業所便りを郵送し、利用者の事業所内での様子や活動、お知らせ事項等を掲載し、報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会を開催し、支援の振り返りを行なって、意見、要望を聞き、業務内容の問題点や改善点を検討している。職員間の人間関係の悩み等があったときは、必要に応じて管理者が個別に聞き取りを行ない、対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの希望や、事情に応じた勤務シフトの作成に努めている。研修参加やレポート提出で職員の努力を評価する機会を設け、賞与や昇給に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で施設内外への研修参加は状況を見定めて行い、リモート研修等にも参加し、職員のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高知市地域包括支援センター再編に伴い西部地域グループホーム連絡会が解散となり、情報交換の機会がなくなったが、近隣事業所と連絡を取り合い、助言を得ている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自分でできることは可能な限りしてもらうよう働きかけ、励まし合い、ときには職員と一緒にしながら、各々の残存機能の維持向上ができるようにしている。ここに居て良かったと思ってもらえるよう、関りを深めながら傾聴し、利用者との対話を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談時に、認知症発症前後の生活の変化や不安や要望を聞き取り、本人、家族が望む事業所生活が実現できるよう、一緒に考えていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階で担当者会を行ない、その人らしく、実行可能で安心安全な支援を模索し、介護計画を立案している。また、必要に応じて訪問歯科医、理美容店のほか、協力医の24時間連携体制によるサービスを調整、提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の人生経験、時代背景、生活歴に目を向け、思いやできることを尊重し、家事活動、畑での野菜づくりや公園内の花木の世話等において、職員は、利用者から教わりながら共に生活をしているという意識を持ち、生活の場づくりに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者一人ひとりが抱えている不安や悩み、問題は、職員だけで解決するのではなく、家族と共有して相談をしている。医療機関の受診や散髪等を受けることが苦手な利用者は家族に立ち会ってもらったり、同行してもらう等の協力体制ができている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、兄弟姉妹、親戚、友人が気軽に面会できるように雰囲気づくりに力を入れ、気兼ねなく居室で過ごしてもらえる配慮をしている。現在はコロナ禍のため、電話での会話やタブレット端末を用いての面会等に柔軟に対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や人間関係に配慮し、両ユニットのそれぞれ集いやすい場所や席の割り振りを行い、レクリエーション、家事活動、調理活動等を楽しんでもらえるよう、関係性を深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には、家族の了解を得たうえで見舞いに行ったりしている。利用契約が終了しても、気軽に立ち寄ってもらえるよう声かけを行い、困ったことや悩みがあるときは、いつでも相談に乗るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活の場ではあるが、利用者一人ひとりがその人らしい生き方、生活ができるよう、職員間で日常の様子から情報を得ている。必要に応じて、家族からも思いやニーズを聞き取って、サービス提供できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前後に得た情報だけでなく、本人と家族にこれまでの生活歴を聞く一方、事業所での日々の様子からも情報収集している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの趣味や好きなこと、特技、レクリエーション活動を盛り込んだ介護計画を作成し、活動の幅が広がるよう努めている。また、職員や利用者同士が話を聞く姿勢を持つことで、発語や会話も増えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所前に本人、家族の意見、要望を聞き取り、介護計画評価は担当職員が行い、モニタリングをして、情報収集をしている。ニーズの聞き取りはケアマネージャーが行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や、家族の要望などを分かりやすく記録するよう、心がけている。また、介護計画に連動した記述ができるよう、両ユニットの記録委員会を中心に職員間で意見交換をしながら、記述内容を見直し、改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	加齢による筋力低下、体調変化の早期発見のため生活活動を注視し、必要に応じて協力医受診、リハビリテーションの依頼等を行い、身体と健康の維持に努めている。利用者一人ひとりが役割分担を検討しながら、生き生きとした生活ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で近隣の商店、スーパー、図書館の利用者利用は中止している。事業所周辺を会話しながら散歩したり、事業所内でおやつ作り、体操などを行うなどの活動をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から利用しているかかりつけ医の継続利用を希望の場合は、家族同行で受診してもらい、受診結果は家族から確認して、情報共有をしている。突発的な熱発や外傷などの対応では、協力医を受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、職員が利用者の心身の変化をその都度報告、相談して、重篤化する前に医療機関を受診する対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、入院に至る経緯を書面で情報提供をしている。また、家族の了解を得て管理者が家族と同席して病状を聞き、情報共有をしている。入院中は地域連携室、看護師、相談員と連携して受け入れ体制を整え、スムーズな退院の実現に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人重度化時や終末期の支援内容について説明し、看取りについての事前確認書に署名捺印をもらい、同意を得ている。また、状態の変化に合わせて、医師、家族、事業所で話し合いの場を設け、今後の看取りの方針を確認して支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、連絡体制、手順が分かるよう、両ユニットのスタッフルームに掲示している。緊急時や事故発生時には、優先順位を考え連絡を取り合うよう、日頃から話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害訓練している。夜間や地震、水害、火災等を想定した訓練を計画し、母体法人の施設全体で行っている。現在はコロナ禍のため、地域住民に呼びかけての訓練は中止している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを尊重した言葉かけをし、排泄誘導時や失禁時などに周囲に聞こえないよう心がけている。居室の入室時にも、利用者に解を得てから入室している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや要望が引き出せるよう、コミュニケーションを取ることを意識して対話している。また、不安や愚痴を訴えられることもあり、対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけ後も利用者の反応や返答を待ち、ゆとりをもって返答できるよう対応している。活動や会話を通じて関わりを持ち、本人らしく過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族からの要望だけでなく、職員からも散髪等の整容の提案をしている。また、自ら髪を整えたり、髭をそることなどができるよう、声かけをし、本人自身が身だしなみを意識するよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回の手作り調理の日を設け、利用者が食べたい物、昔食べていた物等を聞き取り、季節感を感じられるメニューを決めている。食材を切る、味付けする、味見をする等の係を設け、利用者も調理している。それ以外の日は、外注業者の配食を受けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に応じて食事形態や量を変更するなど、柔軟に対応している。栄養状態が芳しくないときは、家族と看護師と相談したうえで、栄養補助食品で栄養バランスを取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ホール内の洗面台で見守りと介護での口腔ケアを行っている。毎月の歯科医往診時に、口腔衛生の質問をし、助言を得て研修を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、声かけ誘導して排泄を促したり、排泄の状態や量を記録している。また、病状が安定している利用者にも排泄支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が入ったゼリーや、センナ茶等を提供したりしている。水分量をアップするため、コップの大きさを変えて小まめに飲める工夫もしている。また、散歩や体操などの活動を行い、便秘予防と自力排便の促進に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は午後に設定して実施しているが、長湯を好む利用者は希望に沿えるよう体調に注意し、対応している。発汗量が多い夏場は入浴回数を増やしたり、冬場は足浴を併用するなど、柔軟に対応するようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝時間は決めておらず、ホール内や自室でテレビを見たり、読書したりと思いに過ぎしてもらっている。就寝リズムが作れない利用者には、職員が傍らに寄り添い、安心して就寝できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更時などには、看護師が内容を説明して、状態観察や注意点、必要性を指導している。職員全員が利用者一人ひとりの薬の内容を把握するまでには至っていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生花を生け、受付前やホール内に飾ったり、事業所前の公園では花木の管理、農園の作物の収穫や世話等の役割を利用者に持ってもらっている。また、利用者差同士でトランプや塗絵、壁画、おやつ作りなどして楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で地域の祭りへの参加、外食、季節ごとのドライブ等の集団外出を中止している。事業所周辺を少人数のグループに分かれて散歩したり、公園の掃除や花木の管理等の活動を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週3回の移動スーパー、週1回の移動パン屋での購入の機会を設けている。金銭管理が無理でも、利用者自身に財布を持ってもらうようにしている。近隣の商業施設での買物や、外食等の機会も設けているが、コロナ禍で現在は中止している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で現在は家族との面会を禁止しているが、希望に応じて、事業所の固定電話や携帯電話、タブレット端末を活用して家族と会話をしてもらったり、手紙やハガキでのやり取りも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や、リビングの壁等に利用者が作成した折り紙や塗絵、レクリエーション活動の様子を撮影した写真等を貼り、活動を振り返りながら会話を楽しんでいる。居室出入口の飾り棚には、各々趣向を凝らした飾りを置いて、自分の部屋が分るようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置しており、テレビ鑑賞や新聞、雑誌を見たり、職員と一緒に座って会話を楽しむなど、皆の集いの場として使用している。誕生日会やレクリエーション活動の際には、机や椅子の配置を変えるなどして活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、入所時に本人が使い慣れた家具や品物、写真等を持ち込んでもらい、また、生活しやすいよう居室内の動線を考えた居室づくりをしている。仏壇やソファ等を設置している利用者もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新規入所の利用者が自室やトイレ等の場所が分からなかったり、混乱したりすることのないよう、その都度声かけて案内したり、立体的な目印等を作成するなどの配慮をしている。		

ユニット名:

すずらん

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない